

=====

～航空局からのお知らせ～

=====

[2026年8月20日]

★Dirty Dozen（ダーティ・ダズン）（その3）

No. 89、101 のメールマガジンにて「Dirty Dozen（ダーティ・ダズン）」の一部の項目を紹介してきましたが、今回は「Lack of Knowledge：知識の欠如」及び「Lack of Teamwork：チームワークの欠如」について紹介します。

（Dirty Dozen の概要及びこれまで紹介した項目については No. 89、101 のメールマガジンを以下 URL より参照ください。）

URL: https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000012.html

1. Lack of Knowledge：知識の欠如

航空機の操縦には、専門的かつ幅広い知識が必要となります。しかしながら、知識不足や古い知識のまま操縦を行うと、誤った判断や操作ミスの要因となり、安全運航に影響を及ぼす可能性があります。

また、運輸安全委員会が公表した平成 27 年 8 月 28 日に栗国空港で発生した航空事故の調査報告書によると、操縦を担当する操縦士の当該航空機のシステムにかかる知識が不十分であったことが事故要因として推定されています。このように実際の事例からも知識不足が航空事故等を引き起こす一因になっていることが明らかになっています。

知識の欠如によるヒューマンエラー発生の対策としては、操縦者に対する訓練を適切に実施することや飛行前に最新のマニュアルや手順書を確認すること、慣れない場所での飛行では、地理的特徴等の情報を事前に入手しておくことなど徹底した事前準備が重要だと言えます。

（参考）

平成 27 年 8 月 28 日発生の航空事故調査報告書

概要：バイキング式 DHC-6-400 型が栗国空港に着陸した際、滑走路を逸脱し、空港外周の柵等に衝突して機体を損傷した。

<https://jtsb.mlit.go.jp/aircraft/rep-acci/AA2016-10-1-JA201D.pdf>

2. Lack of Teamwork：チームワークの欠如

航空機の操縦は、ソロフライトであっても管制機関とのやり取りなど複数の人間が携わることになります。情報伝達不足や思い込みによって、重大インシデントや事故が引き起こされる可能

性があり、運航関係者同士の連携が安全運航に欠かせません。

また、運輸安全委員会が公表した令和6年10月2日に波照間空港で発生した航空事故の調査報告書によると、事故発生時に深夜や急患輸送といった不安全要素（スレット）が同時に進行する中で、CRMスキルが適切に発揮できていなかったことが考えられると分析されており、CRMスキル（状況認識の共有、コミュニケーションの強化など）の適切な活用が再発防止策として挙げられています。

チームワークの欠如によるヒューマンエラー発生の対策としては、情報共有を徹底し、疑問点はその場で解消させることやチーム全体でのブリーフィング・デブリーフィングを実施することが挙げられます。また、航空事故調査報告書でも挙げられているように、CRMスキルを適切に活用できるようにするため、CRM訓練を実施することについてもチームワークの欠如によるヒューマンエラーを防ぐ有効な方法の1つと言えます。

（参考）

令和6年10月2日発生の航空事故調査報告書

概要：海上保安庁所属の回転翼航空機が波照間空港へ進入時に、滑走路西側の樹木に接触し、機体を損傷した。

<https://jtsb.mlit.go.jp/aircraft/rep-acci/AA2026-5-1-JA974A.pdf>

※メールアドレス変更や配信停止の場合は、お手数ですが本メールに返信する形でご連絡をお願いいたします。

国土交通省 航空局 安全部安全政策課

MAIL：hqt-kogataki@mlit.go.jp

TEL：03-5253-8111

小型航空機安全対策係（内線 50135）

特定操縦技能審査担当（内線 50136）

～X(旧 Twitter)もやっています～https://twitter.com/mlit_kogataki
